

23

幅広い学習機会の提供



現状と課題

- 地域住民の学習ニーズに対応した講座などを実施することで、趣味・教養としての様々な知識、技能を高めるとともに、グループ活動を通して、学び、教え合う場の提供が必要です。
- 人権問題における歴史や課題は、学校での教育のみならず、生涯を通じて学んでいくことが重要です。講座や研修会を通じて、市民一人一人の人権意識の向上を図ることが大切です。

主な取組

▶生涯学習機会の提供

- ① 生涯学習のきっかけとなる情報の発信や事業を実施します。
- ② 各世代のニーズ、学習レベルや学習環境に応じた多種多様な講座を企画・提供していきます。

▶人権教育の推進

- ① 人権教育推進協議会及び人権教育集会所運営委員会を開催し、人権教育の推進及び集会所事業の運営について協議を行い、人権教育施策の充実を図ります。
- ② 学校と連携した人権標語・作文コンクールの実施及び人権教育集会所において、人権研修・講座を実施することにより、市民の人権意識の高揚を図ります。
- ③ 人権教育集会所を人権教育及び地域交流の拠点施設として活用するため、適切な管理・運営を行います。

24

学びを支える体制の推進



現状と課題

- 目的に応じた委員会を設置し、市民や有識者、社会の意思を生涯学習事業などに反映させ、事業の中立性・透明性を確保することが必要です。
- 市民の学びの質の向上に資するため、情報提供や学習相談の支援体制を充実させていくことが必要です。
- 生涯学習の指導者やボランティア、講座を企画する社会教育指導員を育成・支援する体制の充実が必要です。
- 市内の社会教育施設はいずれも建築物及び設備の老朽化が進んでいます。上尾市公共施設等総合管理計画に基づき、計画的な施設の改修や更新を行うことで、これらの施設の生涯学習活動の拠点としての機能を維持し、市民の学習環境を確保することが必要です。

主な取組

▶生涯学習活動の支援

- ① すべての市民の自発的な学びを支援するため、情報提供や学習相談体制の充実を図ります。

▶生涯学習指導者・ボランティアの育成

- ① 地域で活躍するまなびすと指導者や生涯学習ボランティアの資質向上のため、講師力・指導力を育むしくみづくりに努めます。
- ② 魅力的な講座の立案ができるよう、社会教育指導員の研修を定期的実施し、資質向上に努めます。

▶生涯学習環境の整備

- ① 上尾市公共施設等総合管理計画に基づき、計画的な施設の改修や更新を行うことで、各施設の生涯学習活動の拠点としての機能を維持し、市民の学習環境を確保していきます。

▶生涯学習推進体制の充実

- ① 生涯学習に関わる各委員会等を運営し、生涯学習体制の充実を図ります。

25

人をつなぎ未来へつなぐ
学習機会の展開

現状と課題

- 地域コミュニティの衰退を受けて、次世代の地域の担い手である子供や若者も交えた多世代交流を通じた地域の絆づくりが求められています。
- 時間や環境等の制約により生涯学習することが困難な人たちにも、平等に学習機会を提供する方法を検討する必要があります。
- 市民の知的好奇心や、深い学習要求に応えるためには、大学や企業等、専門的な機関と連携する必要があります。
- 市民の持続可能な学習のためには、次世代の担い手である若い世代を中心に、「上尾」というふるさとへの意識を高め、未来へとつながる学びの場を提供する必要があります。

主な取組

▶地域住民の交流促進

- ① 地域の人が変わり、人の繋がりが生まれ、皆が人間らしく生きられるような地域社会をつくるため、市民が気軽に足を運べる公民館をつくります。

▶ICTを活用した生涯学習事業の展開

- ① オンラインやオンデマンド形式での講座を企画・実施し、時間や環境的に制約がある市民に対しても、幅広い学習の機会を提供します。

▶産学官民の連携

- ① 市民の専門的な知識や学びをより深めるため、大学等機関との学習協力体制を構築し、市民の知的好奇心を高めていきます。
- ② 市民へ、より高度かつ多様な学習機会を提供するため、民間企業との協働・連携を進めていきます。

▶未来へつなぐ事業の展開

- ① 地域の大学や企業、専門家を講師とした、子供にとって普段学校であまり学ぶことのない専門的な講座を実施することで、子供たちの知的好奇心を刺激し、学びの探求心を育むと共に、将来の進路や仕事を考えるきっかけとなる学習機会を提供します。
- ② 20歳を迎える若者の限りない前途を祝福し、社会人としての自覚を高めるとともに、上尾というふるさとへの意識を醸成するため、「上尾市二十歳のつどい」を開催します。

26

図書館運営の充実



現状と課題

- 利用者が求める情報収集や学習機会に対するニーズも一層多様化しており、それに応えるため、図書館では幅広いテーマの資料を収集し、電子図書やデジタル資料の提供を進めてきました。しかしながら、現状ではその取り組みはまだ十分とは言えません。地域の情報拠点としての図書館の役割は、これまで以上に重要性を増しています。
- 大学図書館では、学術雑誌の電子ジャーナル化が進んでおり、文献依頼については、近隣大学との相互利用等、関係機関との連携を強化していくことが必要です。
- 対面朗読や録音図書の作成など、基本的な障害者サービスを行う環境が十分でないため、研修などにより朗読ボランティアの育成及び質の維持、向上が必要です。また図書館の来館が困難な人への非来館型サービスの充実や、図書館資料の利用に困難がある人の、個々の障害の特性に対応した資料提供が求められます。
- 「子どもの読書活動支援センター」は家庭、地域、学校、図書館が連携し子供の読書活動の推進を図っています。今後は、多様な子供たちの読書機会の確保のため、「上尾市図書館りんごの棚」を中心とした読書バリアフリーに取り組むことが重要です。また、特に読書離れ・活字離れの傾向にある小学校高学年・中学生・高校生の読書活動を推進する必要があります。
- 様々な世代の人々が安らぎ、落ち着いて読書ができる環境づくりと、学びの支援や情報収集と提供を通じ、地域に活力を生む図書館であることが必要です。

＜図書館利用等の推移＞

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
貸出資料点数	1,150,474	1,136,241	1,094,444	1,051,910
蔵書資料点数	590,455	601,970	602,399	607,397
利用者人数(貸出者数)	376,412	378,021	373,063	369,874
来館者数	436,515	648,284	657,2186	674,375
予約・リクエスト件数	236,599	240,929	233,585	232,977

※「蔵書資料点数」は雑誌・視聴覚資料を含む。

※令和3年度の「来館者数」は本館、上尾駅前分館、大石分館のみ集計

主な取組

▶図書館の基本機能の充実

- ① 図書や新聞、雑誌を始め、視聴覚資料、電子書籍、デジタル資料、地域資料を収集、整理保存し、市民が生涯にわたり学習することができる機会と場所を提供します。
- ② 国立国会図書館や大学などの機関と連携し、専門資料の貸借や複写のサービスの充実を図ります。

▶多様なニーズに応えるサービスの提供

- ① 利用案内や情報提供など、レファレンスサービスの提供を行うとともにサービスを周知することにより活用促進を図ります。
- ② ビジネスや健康・医療情報、法律情報などを提供するサービスにより、社会の変化に対応した生活に役立つ情報提供を目指します。
- ③ 利用者の地域性が高い、あるいは専門性のある情報ニーズに対応できるよう、専門的な機関、団体等を紹介するレフェラルサービスを推進します。
- ④ 図書館及び図書館資料の利用が困難な人々に対しては、対面朗読やデジジー資料(デジタル録音図書)の貸出などのサービスを提供します。外出が困難な利用者には、宅配や郵送による非来館型サービスを行います。心身に障害のある利用者には、それぞれの障害に応じた資料を提供します。
- ⑤ インターネットがあらゆる世代を問わず広く普及し、生活に欠かせないものとなっている現状を踏まえ、図書館において ICT を活用した情報環境の充実を図ります。

▶市民の学びと活動の支援

- ① 市民の知的活動の支援を目的とした講座や相談会、展示会等のイベントを開催し図書館資料、地域情報の利用を促進します。
- ② 市民とともに歩む図書館を目指し、市民ボランティアを受け入れ、図書館事業への市民参画を支援します。

▶子供の読書活動の推進

- ① 地域の読書普及活動の担い手となる、読み聞かせボランティアの養成や活動場所の確保、学校などへの派遣を行い、その活動を育成、支援します。
- ② 家庭、地域、学校に向けて読書や本に関する情報の提供や、図書館職員を派遣し、読み聞かせなどの講習を行います。また、講演会等を開催し、子供の読書に関する意識を高める機会を設けます。



(写真1) かんちょうさん、えほんよんで

- ③ 子供たちが新しい本に出会う機会を提供するため、図書館職員が選んだセット本を、小・中学校や保育所などに3か月単位で長期貸出しを行います。
- ④ 小・中学校の調べ学習を充実させるため、学習に必要なテーマの資料を多く収集し、貸出しを行います。また、学校の授業で必要とされる本の収集と提供に努めます。
- ⑤ 「ブックスタート」として、市の4か月児健康診査の際に赤ちゃんと保護者に向けて絵本の読み聞かせを行い、絵本と絵本のおすすりリストを配布し、絵本との出会いの場を提供するとともに、図書館利用につなげていきます。
- ⑥ 「セカンドブック」として、学校・地域と連携し、市内全小学校1年生におはなし会を行うとともに「読書パスポート」を配布し、本に親しむきっかけづくりを行います。また各小学校の協力で読書パスポートコンクールを開催します。
- ⑦ 読書離れ、活字離れの傾向にある小学校高学年から中・高校生を中心とした世代への読書活動を推進します。
- ⑧ 読書習慣の形成に向けて、子供の発達段階に応じて、読書習慣を身に付けさせるための取組を行います。



(写真2)読書パスポート

▶時代に合わせた環境整備

- ① 家庭でも職場・学校でもない第三の居場所「サードプレイス」としての役割を担うための空間構築と環境整備を進めます。
- ② 老朽化が進む施設の整備を図るとともに、地域のコミュニティや賑わいを創出する場としての機能も備えた図書館づくりに取り組んでいきます。

目標8 生涯にわたる豊かな学びの推進 に対する指標

※現状値は令和6(2024)年時点、目標値は令和12(2030)年時点です。

指標		まなびすと指導者が実施した講座数
指標の定義	まなびすと指導者が1年間で公民館講座、市民講座、その他講師として招かれ講座を実施した数。	
選定理由	まなびすと指導者が実際に講師として講座を実施することで、講師力・指導力を育む活躍の場を提供できると考えるため。	
現状値	目標値	目標値の根拠
709 講座	800 講座	令和7年度も含め1年度ごとに15講座ずつ伸ばすことを目標とし、計画終了年度には800講座を目指して目標値を設定。

指標		公民館講座アンケート回答者のうちの講座初参加者の割合
指標の定義	公民館講座参加者アンケート「今までにどのくらい公民館講座に参加されましたか」という質問に「はじめて」と回答した人の割合。	
選定理由	これまでの公民館講座に参加したことがない人に、生涯学習のきっかけとなる場に参加してもらうことを目指すため。	
現状値	目標値	目標値の根拠
36.2%	40.0%	令和7年度も含め1年度ごとに約0.6%ずつ伸ばすことを目指し、目標値を設定。

指標		図書館来館者数
指標の定義	図書館を資料の貸出・返却、館内での閲覧、自習席の利用などで訪れた人の数。	
選定理由	図書館の基本機能の充実に加え、第3の居場所であるサードプレイスとして居心地の良い空間づくりを目指すため。	
現状値	目標値	目標値の根拠
67万 4,375人	90万人	本館・上尾駅前分館の改修効果を、首都圏公立図書館の改修後の利用者数の伸び率平均(56%増)と想定し、令和6年の来館者数をベースに目標値を設定。